

草津・栗東に伝わる「近江湖南のサンヤレ踊り」が

ユネスコ無形文化遺産に 登録されました！

病気や災いなどを追い払い、五穀豊穡^{ほうじやく}を祈る祭りとして始まったサンヤレ踊り。市内では、7つの地域に伝わり、例年5月3日に踊られています。

この度、草津市と栗東市に伝わる「近江湖南のサンヤレ踊り」など、全国各地で伝えられてきた「風流踊」がユネスコ無形文化遺産に登録されました。
※穀物が豊かに実ること

ユネスコ 無形文化遺産とは

ユネスコ(国連教育科学文化機関)は、教育・科学・文化をとおして平和で持続可能な社会をつくるために活動しています。世界遺産条約が対象としている形のある文化遺産と同じように、社会の変化などに伴い、無形文化遺産にも衰退や消滅などの恐れがあるという認識から、無形文

化遺産も国際的に保護しようとする意識の高まりの中、2003年に「無形文化遺産保護条約」ができました。この条約では、受け継がれている伝統や表現、芸能などに関する知識や慣習、伝統工芸技術といった無形文化遺産について、保護をするものです。

●ユネスコ無形文化遺産の登録状況
世界全体の登録数 530件
(日本は22件)
(昨年3月末時点)

日本全国の風流踊

華やかで人目を惹く「風流」の精神を表現します。衣装や持ち物などに趣向を凝らし、歌や、笛・太鼓・鉦などの囃子に合わせて賑やかに踊る民俗芸能です。
地域の歴史や風土に応じ、広く親

近江湖南のサンヤレ踊り

近江湖南のサンヤレ踊りは、滋賀県南部に位置する草津市と栗東市に伝わるサンヤレ踊りです。サンヤレ踊りは、中世後期に都で流行した疫

しまれている盆踊をはじめ、念仏踊や太鼓踊など、さまざまな姿で傳承され、そこに込められた願いも除災や死者供養、豊作祈願、雨乞いなどありますが、平和な暮らしを願う地域共同体によって囃し、踊られ、今日まで伝えられてきました。



神払いの風流囃子物の姿を今に伝えるものです。美しく装った子どもたちが、鼓や羯鼓、太鼓、摺鉦、ササラ、笛などの楽器を賑やかに鳴らしながら、場所を移動しては簡単な踊りを繰り返して、笛や神、扇子などの採り物(道具)を持った人がこれを取り囲んで「サンヤレサンヤレ」と囃し歌うことが特徴です。

志那

一行は、白い法被に黒い帯を締めた衣装を着ます。太鼓打ちの袖の裏には、粋で豪華な柄の生地が仕立てられています。(志那神社 他)

吉田

白い法被を着て、太鼓打ちは、たすき掛けなどを行っています。砂ずりのフジとの共演が見どころです。(三大神社 他)

志那中

法被を着て、役によって赤や黄のたすき掛けの色が異なります。(惣社神社 他)

各地域の祭りの様子は裏表紙をご覧ください。

草津の サンヤレ踊り

災いや疫病を追い払い、五穀豊穡を祈る祭りとして、室町時代から行われています。共通して「サンヤレ」という囃子詞が唄われています。語源は諸説ありますが「幸あれ」が転じたといわれています。

矢倉

2年に1度開催。子どもの衣装は華やかで、桃色基調の花笠をかぶり、大人は袴を着ます。祭り前夜の笹踊りが特徴的です。(若宮八幡宮神社 他)

下笠

子どもたちは華やかな衣装に花笠をかぶり、眉間に朱をつけます。大人は飛龍紋や波文様が入った衣装で踊ります。(老杉神社 他)

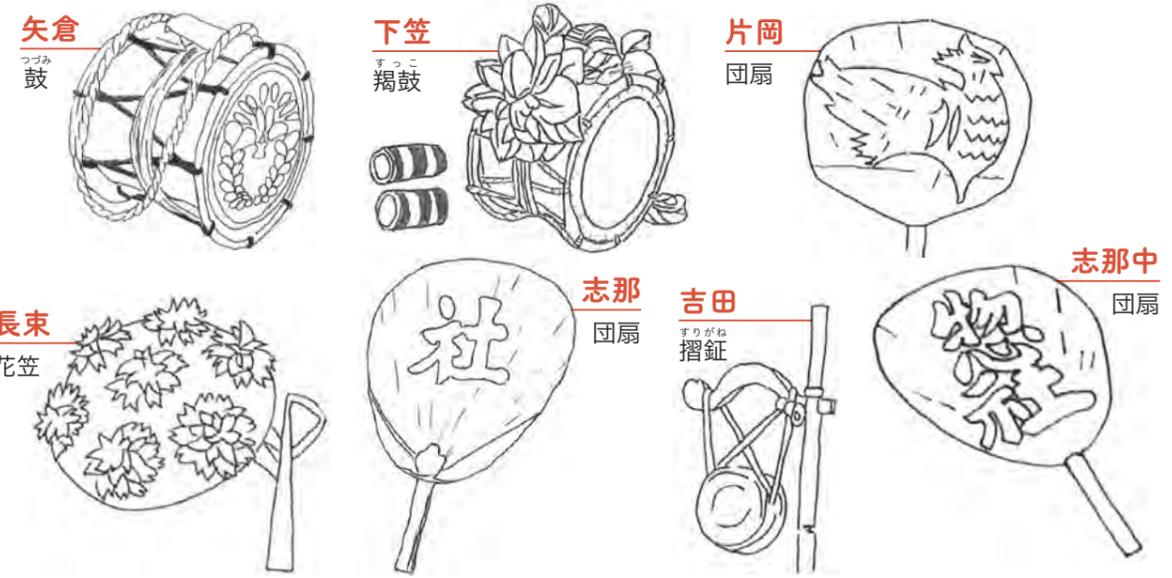
片岡

一行は、黒襟の付いた白い法被を着用しますが、太鼓打ちは友禅染の裂地を用いた法被を着ます。(印岐志呂神社 他)

長束

3年に1度開催。太鼓打ちは、花笠、長着に三色(赤・青・黄)のたすきを掛け、腰に印籠などを付けます。太鼓受けは二色(桃・緑)のたすきを掛けます。(印岐志呂神社 他)

それぞれの地区で使用する採り物(道具)



保存協議会による表敬訪問

昨年11月30日に、草津サンヤレ踊りを含む風流踊がユネスコ無形文化遺産に登録されたことを受け、守山市の小津神社で式典が行われました。その後、草津のサンヤレ踊り保存協議会の代表者が、市長を表敬訪問されました。ユネスコ登録記念講演会が1月に草津クリアホール(野路六)で開かれ、下笠と志那のサンヤレ踊りの実演があります。ぜひ、お越しください。

